

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

Ⅰ 教科に関する調査の分析

●国語《概要》 全体の正答率は全国値を下回る。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと 全国値を下回る。

・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える問題」の正答率は、全国値を下回る。

・「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題」の正答率は、全国値を下回る。記述式の問題で、無回答率が全国値を上回る。

話し合いの様子から話し手の意図を読み取ることができていないことが、回答率に影響していると思われる。

書くこと 全国値を下回る。

・「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」の正答率は全国値を下回る。

・「文章の感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題」の正答率は、全国値を下回る。

問題文や選択肢に出てくる言葉（「引用」など）や表現の意味を理解できていないこと、与えられた条件を満たして書くことなど、様々な要因が挙げられる。「文章のよいところを見つける」という推敲することに慣れていないことも影響していると思われる。

読むこと 全国値を下回る。

・「人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題」の正答率は、全国値を下回る。記述式の問題で、物語から伝わることを30字以内で書く問題だった。4ページにわたって書かれていた物語を制限時間内に読み取り、要点をまとめることができなかったと思われる。無回答率も全国値を上回る。

・「表現の効果を考える問題」の正答率は、全国値を下回る。物語における言葉の表現を情景描写の様子や登場人物の変容、場面の变化に結びつけることができていないと思われる。

言葉の特徴や使い方に関する事項 全国値を下回る。

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」の正答率は、全国値を下回る。

・「話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題」と「言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題」の正答率は全国値を下回る。両方とも選択肢の問題ではあるが、話し言葉と書き言葉の特徴のちがいをとらえ

られていないことが課題として挙げられる。

●国語科における成果と今後の改善点について

○話すこと・聞くこと

・話し合いの様子に書かれてある登場人物の発言の意図やねらいを読み取ることに課題があった。話し合いのテーマをもとに、一人一人の発言の理由や意図を読み取れるような話し合い活動により一層取り組む。

○書くこと

・問題の条件(引用、字数など)にそって文章表現することに課題があった。また、推敲の目的や視点に慣れていないことも課題があると思われる。問題を読み取った上で条件を満たして書くこと、書いた作文を相手に読んでもらったりして、伝え合う経験を通してよいところを見つけ合うような学習活動を増やしていく。

○読むこと

・物語の表面的な読み取りではなく、登場人物の関係性や変容を相関図などでまとめたり、根拠を明確にするために記述に線を引き、理解を高める指導をしていく。

・情景描写や言葉の表現に着目し、意味や物語との関係を追究するために、物語全体を視覚で捉えられるよう場面をイラスト表現したり、各場面を比較してみるなどの学習活動を増やしていく。

○言葉の特徴や使い方に関する事項

・単純な漢字の書き取りについて、学習機会を増やしていく。

・話すときに、相手の反応を見て説明を付け加える発表の仕方の指導、話し手の良さを認めるための聞き方を考える指導の充実を図り、それらを意識してふりかえる話し合い活動を増やしていく。

●算数《概要》 全体の正答率は、全国値を下回る。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算 全国値をやや下回る。

・「二つの数の最小公倍数を求める問題」の正答率は、全国値を下回る。

図形 全国値を下回る。

・「示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題」では、全国値を下回る。

・「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題」は全国値を上回る。

プログラミングを図形に応用することはできているが、「正しく書き直す」という出題に戸惑いが見られたと考えられる。

変化と関係 全国値を下回る。

・「果汁40%の飲み物が1000mlのときの果汁の量を求める問題」は全国値を上回る。

・「25%という割合を分数に表す問題」は全国値を下回る。

・「果汁30%の飲み物が180ml入っているときの飲み物の量の求め方を、比例の関係を使って書く問題」は全国値を下回る。

割合の表し方、割合と比例の関係から考えたりする割合の活用に課題が見られた。

データの活用 全国値を下回る。

・「目的に応じてデータの特徴を捉え選ぶ問題」では全国値を下回る。問題の条件に合わせてデータを読み取ることに課題が見られた。

●算数科における成果と今後の改善点について

○数と計算

・最小公倍数の問題だけでなく、基本的な計算力にも課題が見られた。基礎基本の定着のため、計算問題を解いたり、計算の意味を自分の言葉で説明するなどの機会を増やしていく。

○図形

・プログラミングや図形の特徴を理解することはできているが、「自分が答えを導き出す」ことより、「導き出された答えの間違ひを見つけ、正す」に課題が見られた。様々な答え方を身に着けられるよう、出題の仕方を工夫して授業づくりをしていく。

○変化と関係

・百分率、小数、分数の割合の表し方とそれぞれの関係性、割合と比例との関係性の理解に課題があった。割合を数種類の図で表し分数で表す機会を作っていく。また、「日常の具体的な場面」を「数や式」と「図や表」とに関連付けて考える学習活動を増やしていく。

○データの活用

・グラフや表のデータ資料をもとに、問題に応じて必要な数値を読み取る基本的な学習を増やしていく。

●理科《概要》 全体の正答率は、全国値を下回る。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

生命 全国値を下回る。

- ・「昆虫の体のつくりをもとに、ナナホシテントウが昆虫かどうかの説明を選ぶ問題」では、全国値を上回る。
- ・「与えられた観察の記録と、新たに追加された他者の観察の記録をもとに、見直してまとめを書き直す問題」では、全国値を下回る。

地球 全国値を下回る。

- ・「夜の気温の変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、解決までの道筋を構想し、自分の考えを持つ問題」では、全国値を下回る。予想や仮説をもとに、解決の方法を発想することに課題が見られた。

エネルギー 全国値を下回る。

- ・「光の性質を基に、鏡を操作して的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題」は全国値を下回る。日光が直進することを理解していないことが課題と見られる。

粒子 全国値をやや下回る。

- ・「液体の体積を計り取る器具の名称を書く問題」「器具の正しい使い方を選ぶ問題」では全国値を上回る。
- ・「水溶液の凍り方について、実験結果を基に問題に対するまとめを選ぶ問題」では全国値を下回る。観察・実験の結果を、予想と照らし合わせて適切な考えを作り出すことに課題が見られた。

●理科における成果と今後の改善点について

○生命

・昆虫の体のつくりに関する知識だけでなく、記録の整理の仕方や他者の観察記録を読み取ることに課題が見られた。記録の整理の仕方を工夫し、互いの記録を比較し、意見交換をする学習活動を増やしていく。

○地球

・問題解決をするまでの道筋を見通し、予想や仮説、解決の方法を考えることに課題が見られた。児童が、学習問題に対して予想や仮説だけでなく、実験方法や結果の見通しも考え、全体で練り上げる授業づくりに取り組む。

○エネルギー

・日光の性質の理解に課題があった。教科書での学習や実験にとどまらず、主体的な問題解決を通して学習できるよう、日常生活とのつながりや児童の経験をふりかえられるような導入の工夫を図っていく。

○粒子

・観察・実験の結果を、見直すことに課題が見られた。観察・実験の結果を、予想と照らし合わせる活動や他者の考えと比較しながら結論を検討していく活動を取り入れ、物事を多面的に考える機会を増やしていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答が全国値を下回る。いじめ予防授業には継続的には取り組んでいるが、具体的な事例で考えたり、伝え合ったりして共感し合える授業作りにより一層取り組んでいく必要がある。

・「携帯電話・スマホ・PCの使い方、家の人との約束を守っていますか」の設問では、全国値を上回る。デジタルシティズンシップ授業の取り組みが成果につながっていると考える。

・「先生には、あなたのよいところを認めてくれているか」の設問では、全国値を上回るものの、「自分にはよいところがあると思うか」の設問では、全国値を下回る。挑戦することや将来の目標に関する設問も全国値を下回ることから、中々自分に自信を持っていないことが課題として挙げられる。

【教科・学習について】

・「学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役立つと思いますか」という設問では、全国値を下回りますが、タブレットを使う頻度を問う設問では「毎日～週1回以上使う」が合わせて全国値を上回る。引き続き学習の中、意見交換、考えをまとめ発表、調べ活動といった学習活動での活用を進める。

・国語の授業では、「よく分かる」と答えている児童は全国値を下回る。また「大切だと思うか」「好きか」という設問でも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は全国値を下回る。国語を学習することの意義を感じていないことに課題が見られた。

・算数の授業では、「好きか」「よく分かるか」という設問で、「当てはまる」と回答した児童が全国値を上回る。「普段の生活で活用できないか考える」「解き方をいろいろな方法で考える」などの設問でも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は全国値を上回る。算数の学習には意欲的に学習に向かっていると思われる。

3 今後の取り組み

本校では「自ら課題をもって主体的・意欲的に学ぶ子の育成」という研究テーマに取り組んでいます。教科に関する結果を踏まえ、児童が主体的に学習内容について自ら「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」という学びに向かう姿勢を育むために、関心を持てるような教材づくり、疑問やつぶやきをもとに考え続けることができるような授業改善を、引き続き学校全体で取り組んでいきます。さらに今後、興味や関心を高めるとともに、学習内容を深めるために自分の考えを周り共有したり、検討したり、認め合いながら学びを深めていける取り組みを進めていきたいと思っています。ICTの活用では、1人1台端末の使用により、ICT機器の使い方やルールを守った上での活用はできていると考えられますが、より一層デジタルシティズンシップ教育を推進します。人と関わりながら自他の良さに気づき、互いに認め合うことや、相手の気持ちを思いやりながら人と協力できることの喜びや大切さに気づけるような指導の必要性が一層高まっていると感じます。他者と関わることの大切さに気づけるよう、仲間づくりをはじめとした人権教育により一層力を入れていきたいと思っています。今回の学力・学習状況調査から見えた課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、自らの考えを深められるような学校教育活動の充実を図っていききたいと思っています。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。